

事業群評価調書(令和5年度実施)

基本戦略名	3-3 安全安心で快適な地域を創る	事業群主管所属・課(室)長名	県民生活環境部 自然環境課	笹淵 紘平
施策名	6 人と自然が共生する持続可能な地域づくり	事業群関係課(室)		
事業群名	③ 自然とふれあう公園施設づくり	令和4年度事業費(千円)	※下記「2. 令和4年度取組実績」の事業費(R4実績)の合計額 42,156	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文) 高齢者や親子など誰でも安心して本県の豊かな自然とふれあい、学び、楽しむことができるユニバーサルデザインに配慮した公園施設を整備します。		(取組項目) i) 老朽化した施設の安全確保及び計画的更新 ii) 子どもや老人等誰でも利用しやすいユニバーサルデザインの推進							
事業群	指標	基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 令和2年以降、新型コロナウイルスの影響により、自然公園の利用者数は大幅に減少していたが、コロナの影響が徐々に収束するにつれ、利用者数も回復傾向にある。
	自然公園利用者数	目標値①	14,243千人	14,330千人	14,417千人	14,504千人	14,591千人	14,591千人(R7)	
	実績値②	14,069(R1)	7,743千人	9,556千人				進捗状況	
	達成率②/①		54%	66%				遅れ	

2. 令和4年度取組実績(令和5年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事業事業名	事業費(単位:千円)			事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和4年度事業の成果等	
				R3実績	うち一般財源	人件費(参考)		R3目標	R3実績	達成率		
取組項目 ii	○	1	自然公園施設補修費	10,027	5,427	10,517	既設の自然公園施設について、安全かつ快適な利用を図るため、杵岐対馬国定公園万関園地展望台などの維持補修を実施した。	【活動指標】 施設修繕箇所数(箇所)	5		5	100%
				6,352	5,152	9,566			5	7	140%	
				15,456	6,056	10,417			5			
			自然公園法第3条									
			自然環境課	○	—	—	県内の優れた自然を享受する公園利用者及び地域住民	【成果指標】 事故発生件数(件)	0	0	100%	
取組項目 i		2	自然公園維持管理費	6,626	5,726	3,895	自然公園の保護管理、金泉寺山小屋の指定管理、県有施設敷にかかる国有林野借上料及び清掃活動負担金等。	【活動指標】 清掃活動箇所数(箇所)	4	4	100%	●事業の成果 ・適切な維持管理により利用者の安全性・快適性が確保された。
				6,003	6,003	4,209			3	3	100%	
				5,129	5,129	4,630			3			
			自然公園法第3条									
			自然環境課	○	—	○	県内の優れた自然を享受する公園利用者及び地域住民	【成果指標】 管理上の苦情件数(件)	0	0	100%	
				○	—	○		0				

取組項目 i	3	雲仙公園維持管理費	32,280	9,208	10,906	国立公園雲仙内県有施設等の維持管理を実施した。	【活動指標】	17	17	100%	●事業の成果 ・適切な維持管理により国立公園雲仙の利用者の安全性・快適性が確保された。	
			26,264	12,028	8,418		雲仙公園内公衆便所清掃箇所数(箇所)	17	17	100%		
			68,580	14,345	11,188							
		長崎県自然公園内県営公園施設条例										
		—										
	自然環境課	—	—	—	国立公園雲仙の優れた自然を享受する公園利用者	【成果指標】	0	0	100%			
						管理上の苦情件数(件)	0	0	100%			
							0					
取組項目 i	4	宝原道路維持管理費	2,562	2,562	3,895	公園車道宝原道路において、施設の維持補修工事を行い利用車両の安全を図った。	【活動指標】	1	1	100%	●事業の成果 ・劣化した道路区画線の引き直しを行い、利用車両の安全が図られた。	
			3,093	3,093	3,827		改修箇所数(箇所)	1	1	100%		
			3,489	189	3,858							
		自然公園法第3条										
		—										
	自然環境課	○	—	—	宝原道路利用者	【成果指標】	0	0	100%			
						管理上の苦情件数(件)	0	0	100%			
							0					
取組項目 ii	5	自然公園標識設置費	360	360	1,558	自然公園等の適正な保護管理と利用の増進を図るため、案内標識等を整備した。	【活動指標】	1	1	100%	●事業の成果 ・新型コロナウイルスの影響により、自然公園利用者数は未達成となったものの、劣化した案内標識を整備し、適切な利用の促進を図った。	
			444	444	1,531		自然公園標識の計画的更新(箇所/年)	1	1	100%		
			599	599	1,157							
		自然公園法第3条										
		—										
	自然環境課	○	—	—	県内の優れた自然を享受する公園利用者	【成果指標】	14,243	7,743	54%			
						自然公園利用者数(千人)	14,330	9,555	66%			
							14,417					

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i	<p>老朽化した施設の安全確保及び計画的更新</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 老朽化した施設の破損等により公園利用者の快適で安全な公園施設利用を阻害することがないよう、それぞれの施設に応じた維持管理を適切に行うとともに、多様なニーズに対応した整備を各公園において計画的に実施する必要がある。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 今後も計画的に維持管理を行い、補修が発生した場合は早急な対応を図っていくとともに、各自然公園施設の健全性を的確に把握し、関係機関と連携を図りながら計画的かつ効果的に整備を実施する。</p>
ii	<p>子どもや老人等誰でも利用しやすいユニバーサルデザインの推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 公衆便所や園路のバリアフリー化や標識等の多言語化を行い、快適な公園利用を促進している。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性 引き続き施設のユニバーサルデザイン化を進め、誰でも安心して快適に自然公園を楽しむことができるように整備等を行っていく必要がある。</p>

4. 令和5年度見直し内容及び令和6年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名		令和5年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和5年度の新たな取組は「R5新規」等と、見直しがしない場合は「—」と記載	令和6年度事業の実施に向けた方向性			
			事業期間	所管課(室)名		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分	
取組項目 i ii	○	1	自然公園施設補修費	—		⑤	老朽化した施設の損傷や不具合により利用者の安全が損なわれることがないよう、施設管理者と十分連携を図り、計画的に本事業を実施していく。	現状維持	
			—						
			自然環境課						
取組項目 i		2	自然公園維持管理費	—		—	利用者の安全や利用の快適性を確保するため、今後も本事業を継続する。	現状維持	
			—						
			自然環境課						
			3	雲仙公園維持管理費	—		—	雲仙公園利用者の安全や利用の快適性を確保するため、今後も本事業を継続する。	現状維持
				—					
				自然環境課					
			4	宝原道路維持管理費	—		—	宝原道路利用者の安全を確保するため、今後も本事業を継続する。	現状維持
				—					
				自然環境課					
	取組項目 i ii		5	自然公園標識設置費	—		—	利用の利便性や快適性を確保するため、計画的に本事業を実施していく。	現状維持
				—					
				自然環境課					

注:「2. 令和4年度取組実績」に記載している事業のうち、令和4年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができていないか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点